

10/27 開催 第1回 議員意見交換会からの報告

Point 1 自由に意見が言える場所へ

情報の共有化と認識の共通化 【議員意見交換会等の定期開催】

これまでも全員協議会等の場を通じて、様々な情報を共有してきた。他方、議員経験の多寡により、同じ情報でも受け取り方に差異が生じていたことも事実。16人の過半数が2期以下となった今期の議員構成にとって「自由討議」の機会を増やすことは重要である。

Point 2 「個」の議員×16＝「全」の議会へ

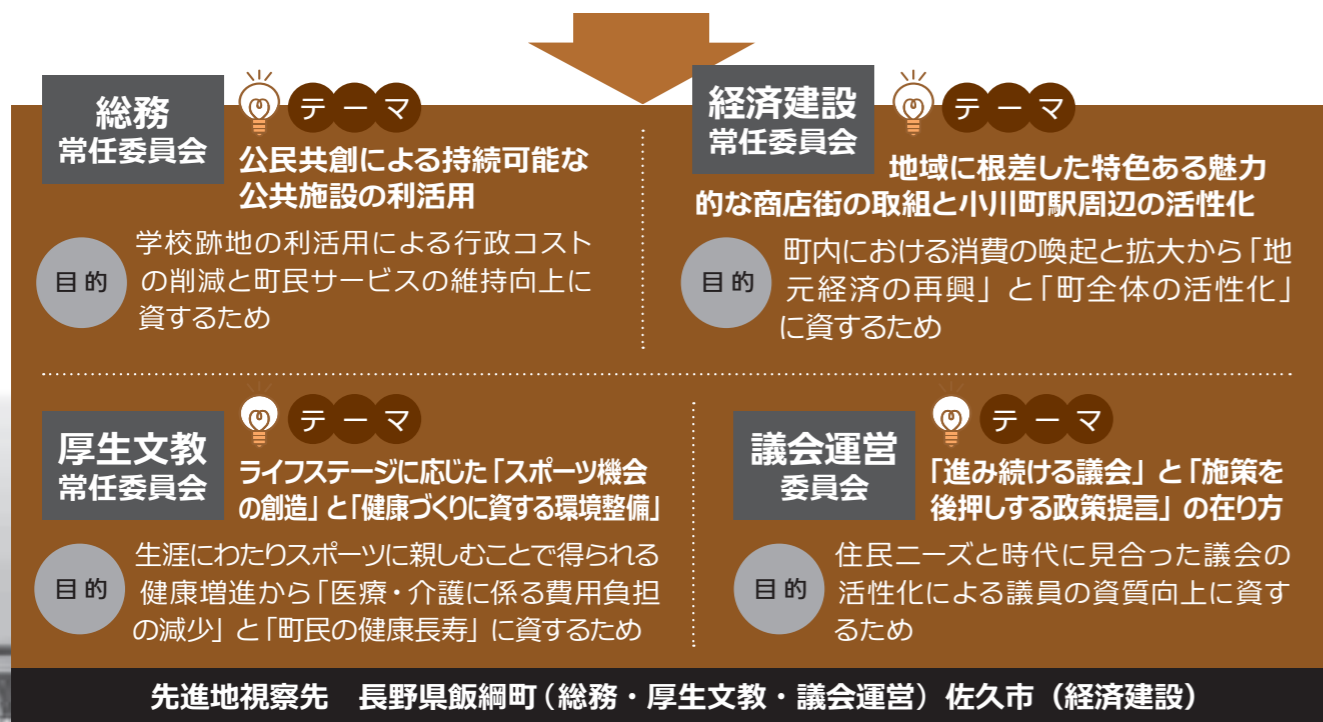
議員の資質向上と一体感のある議会 【調査研究や研修機会の確保】

これまでも常任委員会・会派・個人など、単位は別にしても相応に学ぶ機会は確保してきた。他方、議会の活性化・改革を図る上で必要な知識・技術に特化した研修は皆無。多様化する住民ニーズに「即応する議会」の構築は急務である。

Point 3 常任・議会運営・議会広報発行に係る各委員会の充実へ

委員会の機能強化と 発展的な取組

これまでも各委員会の職務や役割を全うし、行政・住民とともに歩んできた。他方、現代社会にマッチした取組が果たされているかという疑問。議会や行政の課題解決につながる「提言能力」の向上は必須である。



改革・活性化の歩み（平成18年以降）

- 2006 平成18年12月 定数削減20人→16人
- 2018 平成30年7月 議長から議会運営委員会に「人口規模に見合った議員数の検討」について諮問
議員研修会「地方議員の定数問題と議会改革の在り方」講師：専修大学法学部 小林弘和教授
- 2019 平成31年3月 議会運営委員会から議長に「人口規模3万人において住民サービスを十分に提供するためには議員数16人が妥当である」と答申
- 2020 令和2年5月 「コロナ禍にある議会の在り方」を模索 一般質問の時間短縮（75分→60分）・議案質疑の事前通告制など
- 2023 令和5年10月 「議会の活性化」を目途とした「議員意見交換会」の定期開催を決定

特集3 新シリーズ

16人の一歩!!

「議会改革」が叫ばれて久しい。多くの町民が期待する「議会改革」を短期間で実現することは容易ではない。しかし、今夏の選挙で町民から負託を受けた16人は、議会の活性化に向けて、一歩踏み出すことで「致点をみた。まずは、議員全員で町の施策や課題、目指すべき方向性などを徹底的に議論し、情報の共有化を図る。また、議会改革については、合意できたことから具体的に手続を踏み実施していく。今後、議員間討議の状況を見える化し、町民の皆さんに示していきたい。（発行責任者）」

活性化に向けて進み続ける議会

一部事務組合議会から報告

消防・救急・斎場の管理運営・介護・障害審査会・公平委員会
比企広域市町村圏組合議会（令和5年8月9日）
生活を支える重要な役割が広域で実施されています
 一般会計及び各特別会計の歳出決算の総額は約34億円で、小川町の負担額は約5億円となりました。令和6年4月より飯能日高消防署内に4組合（埼玉西部・坂戸鶴ヶ島・比企広域・西入間）合同の指令センター「埼玉西部地域消防指令センター」がスタートします。その準備も進められました。新しくなった斎場も本格稼働、ペットの火葬も増加しました。

一部の行政サービスを複数の市町村が共同で行うための団体が一部事務組合です。構成市町村の議会から議員を選出しています。

ごみ処理・し尿処理
小川地区衛生組合議会（令和5年8月7日）
バイオガスプラント施設の見学会を開催
 令和4年度一般会計の歳出決算は13億2100万円で、小川町の負担額は約4億6300万円となりました。「可燃ごみ処理の民間委託」の初年度は、寄居バイオガスプラント施設の「軽微な故障」や「ぼや」に見舞われ、スムーズな処理（発酵）が進まなかった期間もありました。住民対象に同施設の見学会等も適宜開催していますので、ともに事業の進捗をチェックしていきましょう。



全員で踏み出す一歩